

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300079	事業の開始年月日	平成20年11月1日	
		指定年月日	平成20年11月1日	
法人名	株式会社 ジャパンケアサービス			
事業所名	ジャパンケア川崎新作 小規模多機能			
所在地	(〒213-0014) 神奈川県川崎市高津区新作4-16-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家庭的な雰囲気を大切にし、利用者それぞれの家庭環境や生活環境を考慮し、のんびりゆったりと過ごす事ができる環境作り心掛けています。</p> <p>・通いサービス等の送迎は、他の方との兼ね合いにもよりますが、7時半～19時半まで事業所での送迎が可能で、場合によっては相談にも答えられるよう対応させていただいています。</p> <p>・突然の体調不良により、通いサービスが難しい場合は、訪問サービスに切り替えたり、突然の泊まりの希望など、臨機応変に柔軟な対応ができるよう心掛けています。</p> <p>・少ない職員数の中、業務の時間を工夫して、ご利用者個々のできることを考え、サービスの提供を行っています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年3月28日	評価機関 評価決定日	平成26年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者の要望に添った対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族の要望に応じて送迎時間を7時半から19時半まで対応している。 ・利用者が事業所で過ごす時間を自宅の延長、もう一つの家庭生活として支えている。 ・利用者の状態を見て、通いを訪問に切り替えたり、泊まりにするなど、臨機応変に対応するサービスをしている。 <p>◇理念に基づいたサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本人のペースを尊重し、出来ることはやってもらい、笑顔と思いやりを持って、人として心豊かに過ごせる場所」を理念に掲げ、職員は日常のケアに取り入れ実践に努めている。 ・トイレや入浴も自立できるよう職員は見守りで支援している。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員には接遇や認知症についてなどの研修は年間計画に従って実施し、ケアに活かしている。また、重度化に対する研修も行ない、対応できる態勢になっている。 ・管理者と職員は意見が言いやすい関係にあり、職員の提案で排泄表や水分摂取表などを使いやすい様式に変えて業務の効率化を図っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ジャパンケア川崎新作
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成22年に作成した事業所理念を朝のミーティング時に参加職員全員で唱和し、理念に沿ったサービス提供ができるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「本人のペースを尊重し、出来ることはやってもらい、笑顔と思いやりを持って、人として心豊かに過ごせる場所」を理念に掲げ、日常のケアに取入れて実践に努めている。 ・朝会時に唱和し、確認している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会で行われる行事に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入し、回覧板で情報を得たり、盆踊りに参加している。散歩時や買い物時に地域の方と挨拶を交わしている。 ・ボランティアセンターに依頼し、ボランティアの受け入れを予定している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の入れ替わり等があり、人数の確保ができていないためまだ実際には貢献できていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営規定に則り概ね2ヶ月に1回の開催をしている。現在は地域の民生委員さん、地域包括の方に出席していただいている。毎回利用者様ご家族全員に参加の呼びかけをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は民生委員、地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月毎に開催している。 ・事業所の現況を報告し、意見交換をしている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市で小規模多機能型居宅介護事業所連絡会があり、それに出席し、市内の現状など意見交換をしている。また、その連絡会をきっかけに他の小規模多機能との関わりが増え、お互いに見学したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議録や事故報告などを川崎市にファックスで送っている。 ・高津区保護課職員の来所もあり、連携している。 ・小規模多機能型居宅介護事業所連絡会からの情報を運営に活かしている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修と年に1回（年次計画）事業所にて研修を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・センター会議で「ゼロの手引き」などのマニュアルを使い研修を行ない、身体拘束をしないケアを徹底している。 ・玄関は施錠していない。フロアには職員が見守りのため、必ずいることにしている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回（年次計画）事業所にて研修を行っている。管理者は川崎市の研修にも参加したり、法人の管理者会議でも研修が行われ参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所での研修を行って、学習している。成年後見制度を利用している利用者もおり、今後のことを含め後見人の方と積極的にコミュニケーションを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、一つ一つ項目の説明を行い、理解度や納得できているか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を説明する際に苦情窓口について説明をしている。また、来所された方にも周知していただけるよう相談室に苦情フローチャートを掲示している。家族との連絡帳にて日々の意見を取り込んでいます。意見箱も設置している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意見や要望は送迎時や連絡帳で把握するようにしている。 ・毎月、ケアマネージャーが訪問し、家族と連携を取っている。 ・隔月に情報紙「おかえりなさい」を発行し、利用者の様子を伝えている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の事業所会議にて意見を聞いている。また毎日3回申し送りを行い、伝達の漏れがないようにしている。カードックス、連絡ノートを使用し、変更点の周知徹底を図っている。	・管理者は運営に関する職員の意見や要望を毎月のセンター会議で把握するとともに、会議以外でも現場の意見を聞き、運営に反映している。 ・職員の提案で排泄表や水分摂取表などを使いやすい様式に変えて業務の効率化をはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、努力や実績を給与に反映させ、向上心を持って働ける環境整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の年間計画に基づき、毎月事業所定例研修を開催し、様々な内容の学習をする機会を設けている。研修後には研修振り返りシートを使用し、理解度を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	川崎市の意見交換会の参加や近隣の小規模多機能と相互訪問等の交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規登録受付票や基本情報を使用し、要望やニーズの把握を行っている。生活歴や、趣味などを重点的に伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問時に家族の要望やニーズを伺い、計画書に反映。また最初は職員に同行するため、家族に会い話を聞く機会を多く持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月自宅に伺いモニタリングを行い、話を聞きながらサービスを提案させてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者の視点だけでなく、利用者さんは人生の大先輩ということを忘れずに、利用者さんを尊重して対応するよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートや、送迎時のやりとりの中で情報共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでと同じように日常生活や人や場所との関係が続けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・来所している利用者同士が以前からの知合いが多く、馴染みの関係が続いている。 ・利用者が馴染みのスーパーに買い物に行くのに職員が同行している。 ・長期で泊まられている方の家族が来訪するので、丁寧に対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が楽しく会話ができるよう職員が支援をしている。またゲーム等を取り入れ会話のきっかけ作りを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了される際には「介護に関することはいつでもご相談ください。」と伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初回訪問時に生活歴や趣味などをうかがい、本人や、家族から今後の暮らし方について希望を聞いたり、日常の関わりの中から意向などを汲み取るようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いや意向は、契約時に聞き取った生活歴（アセスメント）と、毎日の生活の様子や会話から把握に努めている。 ・把握の難しい方は、表情などから、推測して把握している。 ・モニタリングをもとに、会議で話し合っ、支援に反映させている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にアセスメントを必ず行い、本人や家族から聞き取りを行って把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から1日の過ごし方を聞いたり関係機関からの情報を用いて把握を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、ケアカンファレンスを開催し、本人、家族、職員の意見を反映し作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時にアセスメントを基に介護計画を作成する。 ・毎月、モニタリングを行なって、担当者会議で見直しをしている。必要に応じて看護師の意見を聞いている。 ・3ヶ月又は6ヶ月、必要に応じてその都度、見直している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者状況シート、職員スケジュール、介護記録に記録を残したり、毎日定期の申し送り、変化があった方の情報を口頭や記録で共有、計画の見直し等にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いサービスの利用日の振り替えや、追加、臨時の泊まりの対応など、急な変更にも対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やその他の公共機関を把握し必要に応じて提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけへの電話・受診の付き添い・相談を行い、関係を図っている。必要であれば訪問サービスを利用し、職員が付き添いを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれにかかりつけ医がおり、受診の付き添いなどを行なっている。 ・情報は電話や連絡帳で共有しケア記録に載せている。 ・毎週、看護師が健康管理などのために訪問している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来所時には健康チェックを行い、日常の健康管理、服薬管理を看護職員が中心に行っている。 定期的に介入が必要な場合には訪問看護を要請している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する時には必要な情報を提供を行い、退院時にはカンファレンスを行うなど、医療機関との関係を構築している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事前に説明を行い、その状態に応じて臨機応変に対応することをお話している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が重度化や終末期を迎えたときの対応については、契約時に口頭で説明をしている。 ・重度化した場合には家族の意向に添うよう話し合うことにしている。 ・重度化の対応指針は無いが、契約時に医療面について話し合っている。 	職員に重度化の対応の研修を行ない、心構えができています。事業所としての指針を作られることを勧めます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修でも行っているが、すぐに対応できるように事務所内と子機の近くに事故発生時のマニュアルを掲示している 不安なものには消防署で行っている講習を受けるよう促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。 開催の際にはチラシにて地域住民に呼びかけを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署に計画を提出し、夜間想定を含め、年2回、消火訓練と避難訓練を実施している。 ・地域には開催を知らせているが参加者はいない。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは利用者の自尊心を損なわないよう心がけている。 接遇マナーの研修も行っている。 言葉かけが悪くなっている時は、管理者が都度注意を促している。	・年に1度のプライバシー保護の研修で、職員は言葉遣いを含めた接遇について思いやりの実施を確認している。 ・個人記録は事務室内の施錠ができる書庫に保管しており、会議記録は個人を特定できないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや・望みを汲み取れるよう疑問形で声かけをするように心がけている。表現の難しい方に関しては表情や動作などで汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・レクリエーション等は利用者のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整える動作の支援を行っている。また、おしゃれや身だしなみの意欲が継続するように声かけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事の準備を行ったり、片付けを行っている。 食事前には口腔体操を行い食欲を促している。 食事中的話題作りにTVをつけている。 味付けに対する評価などしてもらい声かけをしている。	・献立付き食材を業者から配達してもらい、職員が調理している。 ・誕生会、クリスマス、正月の行事などの特別食は、食材の購入から調理まで利用者とともにしている。 ・食事前にラジオ体操と口腔体操で食欲を高め、食後に主菜副菜の残食調査をして好みを知り、次の献立に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録や水分チェック表を用いて、それぞれの必要な量などを把握している 量が多くなりやすい人に対しては湯飲みの大きさをかえて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。本人がやっているか、介助で行っているかは利用者状況シートに記載方法を工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。	・排泄表や、送迎時の家族からの口頭による伝言や連絡帳の記載から、頃合いを確認して声を掛け、トイレ誘導の細やかな支援の結果、パットが不要になったケースもある。 ・床と便座の安全確認チェックをして安全の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて排便有無を確認。水分量をコントロールしたり、薬の使用等を家族と相談しながら管理している。トイレ時や入浴時に腹部マッサージの実施も促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人や家族が希望すれば毎日入浴も可能としている。 拒否があった場合にも時間をおいて誘導したり、服を脱いでもらえるよう声かけを工夫したりしている。	・浴室は機械浴室と一般浴室の2箇所が設置され、必要に応じて機械浴を使用している。 ・入浴時刻は決めず、利用者の希望で午前10時頃から、また、温度の調整や長めの入浴で、くつろげる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での環境に合わせ、休息の場所を設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を家族よりいただき、ファイリングして、緊急時にも使用できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを行い、その方の生活歴や趣味などしっかりお聞きし、それをスタッフで共有して、会話やレクリエーションに反映して対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じ散歩や、買い物、ドライブ等を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの利用者にとって施設への来所が外出であると考えている。 ・一部の利用者の要望で、毎日スーパーへ日用品の買い物支援を行っている。 ・行事のときは全員参加を基本とし、初詣、お花見の外出をドライブがてら実施している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理については本人の要望やご家族と相談し、必要時に持参してもらうようにしている。訪問サービスの買い物についてはサービス実施記録に記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由にできるようにフロアに設置している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクで書いた習字や塗り絵などを掲示。廊下を歩く際の話題の種にしたりしている。 日当たりがあまりよくないので、常に電気は点けるようにしている。 玄関に四季のわかる飾り付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・床暖房とエアコンで室温は保たれている。空間除菌装置を設備して常に清潔を保つようにしている。 ・春の季節には、紙の雛人形と桜花の貼り絵で室内飾っている。 ・リビングに続く個室沿いの数メートル以上の廊下で歩行練習を行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファを設置し、少人数で過ごせる環境を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望する物を自由に持ち込んでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・泊まりの部屋は洋室と和室が準備され、利用者が選択している。エアコン、ベッド、寝具、ポータブルトイレ、小型の物入れが準備している。 ・緊急な宿泊にも対応している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりを各所に設け自立した生活を送れるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ジャパンケア川崎新作

作成日 平成26年5月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議での家族の出席率が低い。	一人でも多く、利用者さんの家族に参加いただけるようにする。	家族様に対して、改めて趣旨を説明して、参加いただけるよう促す。行事の日に来てもらうなどや、曜日を家族が来やすい祝日に開催したり、工夫する。	6ヶ月
2		行事は時々開催しているが、より充実した行事、外出レク、ボランティアを考えている。	外出レクやボランティアをもっと取り入れ、利用者さんの満足度をあげる。	外出レクは小まめにできるような企画を含め、スタッフ全体で取り組む。ボランティアはボランティアセンターやスタッフのコネで今後増やしていく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。